

《募集・授賞の経過》

以下の経過により、2006年度のまちづくり賞の募集および授賞の決定を行った。

第1回委員会（8月16日） 2006年度募集要領の検討

- ・今年度も昨年度同様できるだけ多様な分野から多くの応募・推薦を求めること、都市計画・まちづくり分野の新しい動きを広くとらえていくことを目標とした。
- ・授賞をとおして、まちづくり活動やプロジェクト等の内容だけでなく、そこでの都市計画に関わる成果を評価することにより、都市計画の次代への視点を提示するとともに、賞の社会的評価を得ることができるよう募集・授賞のあり方を議論した。
- ・昨年度の募集要綱を基本とし、賞の主旨を明確にすること、評価の視点をわかりやすく表現すること、再応募の確認について修正を行い、募集を行うことを決定した。

第2回委員会（11月15日） 選考方法の検討

- ・募集の結果、9件の応募・推薦を得た。
- ・書類確認のうえ、応募・推薦対象について、質問事項を整理し、ヒアリングを実施することを決めた。

第3回委員会（12月16日） 選考ヒアリングの実施

- ・事前に応募者（または推薦者）に対して質問項目を連絡し、各応募者の持ち時間を25分として、事前質問への回答プレゼンテーションおよび質疑応答を行った。
- ・ヒアリングによって、書類の内容を確認するとともに、応募・推薦内容についての情報を委員で共有することを目的とした。

現地調査（1月6日）

- ・具体的な建設事業等が実施されているところについて、その実態を確認するために現地調査を行った。
- ・高月町については、別途、担当を決め現地の状況を確認した。

第4回委員会（2月26日） 審査・選考

- ・応募・推薦資料、ヒアリング内容、現地調査を踏まえ、授賞対象を検討した。
- ・意見交換を行い、それをふまえて投票による選考を実施し、幹事会に提出する授賞案を作成した。

幹事会での議論を踏まえ、以下の3件に対する授賞を決定した。

- 1) 浜甲子園さくら街(第1期建替)「タウンスケープをつくる団地再生デザイン」
独立行政法人 都市再生機構西日本支社 他4者
- 2) レガッタによる兵庫運河の再生とまちづくり
キャナルレガッタ神戸実行委員会
- 3) 人をつなぎまちを創るかなめ — 「NPO花と観音の里」のTMO活動
特定非営利活動法人 花と観音の里

《総 評》

9回目となる2006年度の関西まちづくり賞には、9件の応募・推薦（計画技術1件、まちづくり活動4件、アーバンデザイン2件、組織づくり1件、システム提案1件）があった。応募者ヒアリングと現地調査を行い、下記の5つの評価の視点によりまちづくり賞の授賞対象の検討を行った。

評価の視点：

- ・取り組みの方法・発想・技術・システムなどが画期的で新たな時代を開いたもの
- ・継続することによって多くの知見が蓄積され、そこから新たな知見を生み出したもの
- ・様々な主体による協働など、自律的な課題解決に新たな取り組みがあること
- ・新しい主体・プログラム・しくみ・他分野との連携などの革新的な提案につながるもの
- ・多くの地域で参考とすることができるような広がりのあるもの

地域のまちづくりや都市整備に多くの主体が協働するようになり、そこでは、複数の都市計画制度や事業などのしくみを組合せ、地域課題の解決にむけてオーダーメイドの取り組みの工夫が行われている。そのなかで専門家の役割や必要とされる専門性も多様化してきている。「まちづくり」賞という名称から、いわゆる「まちづくり」の活動を授賞対象としているように思われがちであるが、多様なまちづくりや都市整備において、工夫されたしくみや制度の提案、実際にできあがった環境の先進性、社会実験や計画技術の開発の具体的可能性など、新たな都市計画分野での取り組みを評価することにより、今後の関西の知恵を広げていくことに、授賞の目的があると考えている。

ミニシンポジウムの開催

選考過程でのヒアリングの際に、応募者のなかには、なぜ活動が可能となっているのか、協働する他の主体とどのような役割分担をしているのかなどについて案外と認識していないところが見られたことから、意見交換を行った。選考かていで何を評価したのか、授賞の意味について広く発信するため、新しい試みとして授賞式のあとにミニシンポジウムを開催した。

《講 評》

「浜甲子園さくら街(第1期建替)：タウンスケープをつくる団地再生デザイン」

大規模団地の建て替えは長期間にわたることから、団地の建て替えは、単なる建物を更新することではなく、まちづくりであるという認識にもとづき、既存の地形に沿うことにより環境の継承を図るとともに、住棟の低層部を道路側でまちにひらくことによる通りの町並みをつくるタウンスケープが提案されている。通常、住宅団地は防犯や管理から生活空間をまちに閉じるデザインになりがちである。しかし本来は生活空間が通りに建ち並ぶところにまちができ、タウンスケープが形成される。その意味では、団地の建て替えにおいて通りを意識し、時間の経過のなかで、生活が通りに表出し、ときには低層部が店やカフェとなったり、高齢化が進めばデイケア施設が入るような変化を受け止める空間のデザインコンセプトが次世代のまちづくり型団地再生を提案するものとして評価できる。

「レガッタによる兵庫運河の再生とまちづくり」

運河でレガッタを漕ぎたいという思いが、運河の掃除に始まり、多くの主体が関わることで、運河を核にしたまちづくりへと展開していった。レガッタをめぐる、様々な主体が関わり、それぞれの立場や役割、専門性にもとづく緩やかな役割分担と連携のしくみと、ソフト・ハードの両面からスポーツとしてのレガッタ競技を持続させていく環境づくりが取り込まれ、それが結果的に公的な水辺整備につながっているプロセスを、新しいまちづくりの提案として評価する。

「人をつなぎまちを創るかなめ — 「NPO花と観音の里」のTMO活動」

地方都市において、いろいろな立場の住民が立場を離れてフラットな関係でまちづくりを議論するプラットフォームを提供し、現実的な問題解決を進める、NPOによる地域自治への取り組みである。NPOとしての活動はまだ始まったばかりであるが、行政・専門家とも連携し、指定管理者制度を活用して公共施設の利用と地域活動のための場所づくりを連携させたり、ワークショップなどを企画したり、まちづくりのプラットフォーム運営により情報の共有化や多様な主体が協働できる場をつくったりといった、様々な工夫に取り組んでいることを評価したい。小さな町であるからこそ求められるTMO活動であり、小規模な町でのまちづくりのしくみとして広く参考になるものである。

2006年度 関西まちづくり賞 選考過程

募集要領の検討	第1回 2006.8.16	2006年度まちづくり賞選考の進め方
----------------	---------------	--------------------

募 集	期間 2006.9.15～10.31 応募 9件
------------	-----------------------------

評価視点

- ・取り組みの方法・発想・技術・システムなどが画期的で新たな時代を開いたもの
- ・継続することによって多くの知見が蓄積され、新たな知見を生み出したもの
- ・様々な主体による協働など、自律的な課題解決に取り組んだもの
- ・新しい主体・プログラム・しくみ・他分野との連携などの革新的な提案につながるもの
- ・多くの地域で参考とすることができるような広がりのあるもの

選考方法の検討	第2回 2006.11.15	応募業績への質問、ヒアリング項目調整
選考ヒアリングの実施	第3回 2006.12.16	応募9件のヒアリング

担当委員による評価シートの作成

・現地調査等による評価作業

審査・選考	第4回 2007.2.26	<評価ポイント> ・取り組みにおける仕組みが確立し、継続性がある ・地域づくり、都市づくりの視点がある ・地域課題に応じて使い方や運用に独自の工夫がある ・活動途上でも、次代の課題を提示しており、将来性・展開方向がみえる ④欠席委員への照会
授賞理由及び落選理由の整理		

幹事会決定

2007.3.16

結果の通知

授賞連絡
応募・推薦者通知

記者発表

UR都市機構
神戸市役所
高月町

浜甲子園さくら街
レガッタによる兵庫運河の再生とまちづくり
高月町花と観音の里

表彰式

表彰式・プレゼンテーション
ミニシンポジウム

2007.4.24 大阪市立大学文化交流センターホール